



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No.57

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会
東京都台東区浅草橋5-8-6 東京スポーツ
〒111-0053 会館 301号室
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491
ホームページ <http://www.jsera.jp/>
E-mail jsera@jsera.jp

〈2010/8~2011/7のスローガン〉

スポーツ業界 南都が遷都…「50年の力」で 乗り越えよう!



今こそ原点へ、そして共生へ

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重森 仁

傾き、曲がりくねった連絡橋が妙に大きく見えた。西に傾いた陽の映し出す影は連絡橋のもの一つしかない。今、私は常磐線、福島県新地町駅前に、いや、駅前だっただろう所に立っている。東日本大震災発災以来、2ヶ月が経とうとしている5月9日である。あたり一面を埋め尽くした瓦礫の中にかろうじて線路と思しきものが見える。盛り土の上でなく、平地を走っている線路だからあの津波にひとたまりもなかっただろう。

私の住む滋賀県にはJR東海道本線が走っている。完成は明治22年頃だったと記憶するが、彦根や近江八幡では旧市街地を避け、山側に離れて作られた。建設当時、機関車の出す煙がお城に迷惑だったから遠ざけたらしい。今では市街地が逆転して、駅周辺が栄えている。

ここ新地町から宮城県山元町にかけての常

磐線は海に近いところを通っている。このあたりは少し海から入った小高い丘の際に国道が走り、それに沿うように民家が立っている。おそらく先人の知恵で津波から安全なところに住まいを構えているのであろう。ここに常磐線を通す時、煙たい訳ではなかっただろうが、数キロ離れた海側の人が住んでいない(住まない)ところを選んだのであろう。そうして新地駅や坂元駅、そして・・・と駅がつくられたのであろう。

駅ができれば、人々は便利さを享受する。やがて駅前に店ができ、住宅もできる。丘沿い(津波にたいして安全な所)を離れ、便利な駅前へ移り住むことも、また人口が増えて駅近くが格好の新住宅地になったのかもしれない。

平成23年3月11日事態は一変する。一瞬にして、幸せは波にさらわれた。考えれば、

今こそ原点へ、そして共生へ

ここに、このような形で常磐線を走らせたことは、ある意味大きな罪作りだったとも言えよう。一人の人生せいぜい100年、それに比べて何千年、何万年、何億年のスケールの自然と共生するには、常に謙虚さを持ち、先人の教えを大切にしなければと考えさせられた。一つの行為が、一つで終わらず大きな連鎖を生むことも併せて深く考えなければならないとも思った。

商売の道もそうだろう。現役でバリバリできるのはせいぜい50年、何百年も続き、これからも続くであろう商売の道、自分だけ売ればよい訳ではない。安売りに奔って、自分の売り上げはできても、後に何を残すだろう。アウトレットと称して売れ残り(?)を大量に廉価で処分する。我々地域店を駆逐し、業界のモラルを下げ、その後何を残すだろう。インターネットの販売にも節操のなさが目に付く。目を覆いたくなる。苦難の中、避難所で身を寄せ合って、助け合って前を見て居られる被災者を見れば、自分さえ良ければ、自分さえ儲かればとのエゴは消えるはずである。

この惨状を目の当たりにし、「がんばってください」なんて軽々しく言えないことも実感した。「生きるって何なの」、「商売って・・・どうしていくの」「どうすれば協力し合えるの」・・・頭の中で整理がつかない。瓦礫に沈む夕日を見つめ、「もう一度なんとか・・・」そうつぶやくことで精一杯だった。

今回の震災で、お亡くなりになられた方々

に、哀悼の誠を捧げ、まだ、なお行方のわからない方々が一刻も早く見つかることを祈り、また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。JSERAは、地震発生数日後、大阪での緊急対策会議を開き、対応に奔走してきました。皆さんにも学納の時期に関わらず、大変な協力をいただいた。事態は目に見えて好転する様子はない。福島原発事故、相次ぐ余震の発生など復興を妨げる事象も頻発した。その中で、義援金のお願いとその配分対応、宮城県組合(県体育協会要請)スポーツ用品寄贈への協力、「原発による被害補償を小売業にも拡大する要請」など十分な内容といえないが努力してきた。その間、愛知県組合は現地へ炊き出しに訪れたり、東北製品の販売と義援活動にすばやい行動をとられた。このことに最大限の敬意を払いたい。その他の都道府県の組合員の方も、さまざまなルートで人的、物的支援をしていただいたことと思う。また、何よりも組合員が共に居ることが大きな精神的支えとなったのではないかなと思う。地道な組合活動が、まさかの時にセーフティネットになったと実感した。

最後になりましたが、メーカー・卸その他関係各位の方から多額の義援金をいただきましたこと、心からお礼を申し上げます。まだまだ続くこの道、更なるご協力をお願いする次第です。

「今こそ原点に帰ろう。そして共に生きる道を探そう」

JSERA 回覧板第 1 ～ 6 号

JSERA では、東日本大震災発生直後より会員の被害状況や支援について回覧板を通して情報を流してまいりました。日本は一つ、会員も一つになって頑張りましょう。

平成 23 年 3 月 22 日

JSERA 回覧板 (第 1 号)

前略 3 月 16 日大阪弥生会館において、東北・関東巨大震災支援に関する緊急対策会議を開催しました。各県理事長様には金銭的支援又、精神的支援をお願いしたところです。早速各団体より支援の手が上がりましたので、報告すると共に被害の状況も報告いたします。

・金銭的支援の報告

(株) D&M 羽田野氏より 100,000
全日本スポーツ用品卸組合より 500,000
兵庫県運動用品商業協同組合より 500,000
その他各県より支援の輪が広がっています。

・被害状況の報告

宮城県 現在確認中 (被害膨大の為不明)

岩手県 大船渡市 T スポーツ様 社長夫妻無事、
店は壊滅状態
盛岡市 T スポーツ様 宮古店・釜石店ス
タッフ、店舗無事
釜石市 T スポーツ様 連絡・状況つかめず
久慈市 T 運動具店様 特に問題なく
営業開始

福島県 現在確認中、原発事故の影響は？

平成 23 年 3 月 30 日

JSERA 回覧板 (第 2 号)

時間が経つにつれていろんな事がわかって来ました。
現在 JSERA にて把握している情報を次に示します。

・被害状況の報告

宮城県 大坪理事長より連絡あり。全員無事との事。
電気・水道は復旧。ガスは見通し立たず。
岩手県 第 1 号にて状況不明となっておりました釜石市
T スポーツ様
家族無事。ただし、二階まで浸水とのことです。
福島県 組合事務所より連絡あり。
JSERA リポートにも記載しましたが、ほとん
どのお店の壁やガラスの一部が落ちたり、店内
の棚が倒れ商品が散乱。
しかし、人的な被害は無かったとのことです。

・金銭的支援の報告

50 万 兵庫県組合・全日本スポーツ用品卸組合
20 万 埼玉県組合・石川県組合・鳥取県組合
15 万 高知県組合・佐賀県組合
17 万 北海道組合
10 万 秋田県組合・山形県組合・千葉県組合
新潟県組合・静岡県組合・三重県組合
岐阜県組合・京都府組合・和歌山県組合
山口県組合・香川県組合・徳島県組合
愛媛県組合・長崎県組合・熊本県組合
大分県組合・宮崎県組合・鹿児島県組合
東京都組合・山梨県組合・広島県組合
D & M 羽田野洋様・トーエイライト(株)大江様
10 万 810 (株)アスカ
2 万 (株)若松屋スポーツ
1 万 愛媛県石田理事長

平成 23 年 4 月 12 日

JSERA 回覧板 (第 3 号)

第 2 号に続いて第 3 号として情報を発信します。

・被害状況の報告

茨城県・栃木県・群馬県他
商品落下・停電・燃料不足・ひび割れ・ガラス
の破損・壁面の損傷・水道管の破裂等。
千葉県 スポーツショップ K 様、駐車場地盤沈下・水道
ストップ。
静岡県 計画停電実施により店舗一時休業発生。
(その他近況)
埼玉県 原発の影響で福島県双葉町の住民 1300 名が加
須市に避難。
小中高校生 150 名ほど学校編入に伴い対応に追
われる。
青森県・栃木県・群馬県他
スポーツに対する消費が低迷し回復にかなりの
時間がかかるのではと思われる。

・金銭的支援の報告

57 万 大阪府組合
20 万 富山県組合・福井県組合
15 万 神奈川県組合
12 万 福岡県組合
10 万 長野県組合・愛知県組合・滋賀県組合
奈良県組合・鳥根県組合・沖縄県組合
ササクラスポーツ社
5 万 (資)関水スポーツ
3 万 (株)ハシモトヤ運動具店・(株)クボタスポーツ
1 万 (有)マイティースポーツ・(株)アメリカ屋
神奈川県組合事務局長

平成 23 年 4 月 14 日

JSERA 回覧板 (第 4 号)

この度、東日本巨大震災復興支援(金銭的支援)としまして、義援金が総額 6,580,810 円(4/13 現在)寄せられました。

皆様の温かい志に感謝申し上げます。

全壊程度の 1 組合員には 40 万円・半壊程度及び原発避難指示区域内の 1 組合員には 20 万円の緊急一次配分を行うことにいたしました。

岩手県・宮城県・福島県の 3 県で全壊程度が 6 店、半壊程度が 8 店ありましたので、県の事務局を通して組合員の方々にお渡しして頂きます。

今後、半壊まで至らなかった店など必要に応じて追加の支援をしたいと思えます。

<お見舞いの手紙> 重森 仁 理事長 より (3月19日付)

岩手、宮城、福島県組合員様

未曾有の震災に心からお見舞い申し上げます。

連日の報道に接し、不自由な生活を強いられたいらっしゃるとお察しいたします。思いが空回りし、状況を把握しないまま手紙を書くことをお許し下さい。ライフラインが寸断された上、冬の寒さがぶり返し、追い討ちをかける自然の非情さに憤りすら感じます。その中で、どのような言葉をおかけすれば良いのか見つけられません。

ただ、「皆さんには JSERA の仲間がいます。きっと皆様の温かく包み込み、お役に立ってくれると思います。」そのことをお伝えしたくてペンを取りました。

「冬は必ず春になる」とは、山形全国大会のスローガンでした。そのことを信じ、辛いでしょうが、一緒に前を向きましょう。



(この手紙への返信メッセージをご紹介します。)

岩手の沿岸部はすべて店も商品もデータも無くなりました。利害関係を越えて、できるだけ支援・協力をいたします。現地の声・要望を集約して、ご支援の程、よろしく願います。

岩手県 アルファ(株)平野利幸 氏

※(回覧 6 号以降、6 月 23 日までの状況として)

・義援金支払いの件

余震により半壊程度の被害になってしまいました 1 店分として、6 月 10 日に茨城県へ 20 万円追加振込いたしました。

・金銭的支援の報告

鶴沢ネット(株)様より 50,000
日本スポーツイベントサービス推進協議会様、
社団法人日本スポーツ用品工業協会様等メーカー様より、
3,000,000

皆様の心温まる善意に感謝申し上げます

平成 23 年 5 月 24 日

JSERA 回覧板 (第 5 号)

前略 5 月 11 日(水)理事会において、義援金(5/11 現在お預かりしていましたすべて)の 2 次配分を行うことが決定いたしました。

5 月 19 日(木)岩手県・宮城県・福島県に各 70 万円、青森県・茨城県に各 10 万円、千葉県に 5 万円を振込いたしました。

(4 月 25 日には余震により全壊程度の被害になってしまいました 1 店分として福島県へ追加振込しております。)

5 月 9 日(月)重森理事長が岩手県・宮城県・福島県へお見舞い訪問をし、岩手・大船渡の全壊された T さんと面会しております。

また、「宮城県組合要請品提供について」のお願いをさせていたいておりますが、各県組合・組合員の方々より多数提供品のご連絡をいただいております。

温かいご支援に感謝申し上げます。

・金銭的支援の報告

(株)モリヤスポーツより 180,000
岡山県運動具商協同組合より 100,000
運動具友和会様より 50,000

平成 23 年 6 月 3 日

JSERA 回覧板 (第 6 号)

前略 先月「宮城県組合要請品提供について」のお願いをさせていただいておりましたが、計 47 店の組合員の方々による多数の提供品により宮城県体育協会の要請品は充足いたしました。

皆様の温かいご支援・ご協力に大変感謝申し上げます。

また、宮城県の大坪理事長には県体育協会からの要請との対応等、ご尽力頂き大変お疲れ様でした。

今後とも支援活動を続けて参りますので、組合員の方々のご理解・ご協力をお願いいたします。

草々

・経済産業省からの要請文より抜粋して掲載します

(福島第一原子力発電所事故に伴う風評被害の防止及び福島県の工業製品等の放射線測定について)

原子力事故の風評被害の影響による、トラブルに対しては、各機関から提供される情報等を十分理解の上、科学的・客観的根拠に基づいて適切に対処していただくよう、お願いいたします。

今回の事故を踏まえ、福島県が福島県ハイテクプラザ(郡山市、いわき市)において福島県内企業等からの依頼を受けて行った、警戒区域内を除く地域の工業製品等の放射線量測定結果(5 月 25 日現在 1650 件)について提供を受けたところ、屋外に置いてあった 2 件を除き※欧州委員会エネルギー総局が加盟国に対し共通閾値(汚染を測定した際に、問題の有無を判断する上での基準となるしきい値)として利用することを推奨した値(0.2μSv/h:バックグラウンドを除く。)と比較しても十分に低い水準となっております。

※屋外に置いてあった 2 検体が当該値を若干超えたが、水で洗う等の処理を行った結果、これを十分に下回る水準になったとの報告があった。

未曾有の災害より復興へ

福島県運動具商業組合

理事長 桑原 勇 健

3月11日（金）14時46分、三陸沖を震源地とする観測史上最大、M9.0の激震が東日本を襲いました。

テレビを見ていたら、地震警報が流れ、「まもなく大地震があります、直ちに避難してください。」と、繰り返し流れました。

皆に「地震が来るぞ 逃げろ！」と、叫びました。凄い揺れ、店内のバットやキャスター付の什器はあちこちにぶつかりながら散乱しました。

10分間隔で余震が続き、生きた心地がしませんでした。間もなく津波予報が流れました。テレビに囁り付いて見ておりましたら、想像を絶する大津波、見たことのない大津波、福島の浜通りが流されていくのが映し出される。

大変な事になった。ただオロオロするばかりの一日でした。

県内死者1,200人を越え、行方不明者は3,000人以上に上りました。

東京電力福島第一原発が事故を起こした。津波に発電機がさらわれ、压力容器の圧力が異常に高くなり、放射能を放出するペントを政府は指示、どうなっているんだ、12日の15時ごろに水素爆発、悲劇はここから始まった。

20キロ圏内に避難勧告。沿岸部から避難する車の列は見えなくなるほど先まで続いた。被爆をされた方も大勢いるだろう。

10万人の周辺住民が避難している。二度と帰れない方もいると思う。

チェリノブイリ原発事故に匹敵するレベル7が世界中に流れ、福島はフクシマに変わり注目の的になりました。風評被害もこの時から始まりました。

そんな中、JSERA 組合より義援金が届き、津波をかぶった店舗・全壊した店舗・半壊した店舗に届けました。

その後も追加の義援金を戴き、風評被害で商売が著しくダウンした店舗に配布いたしました。敏速な対応に受け取った店舗さんからは感謝の

メールや電話を戴き、復興に向け動き出しました。

まずは出来るところから前へ進む。先の見えないうトンネルの中で、もがき苦しみながらもギブアップはしない、復興までは長い時間が掛かりますが頑張ると言っていました。

困った事に学校は野外での運動を自粛し、例年行なわれます運動会も会津地方を除き、中止となりました。

スポ少活動も本格的には出来ず、各種大会も今年度は中止の所が多いと聞きます。

5月26日に理事会を開催し、改めて被害状況を聞きました。

今後は、要望に応じてJSERAと相談し、お力を貸していただくようお願い申し上げます。

原発の風評被害は県内経済を直撃し、その影響は観光に至っては80%ダウンしたと言うところがザラです。

早く、収束宣言が出される事を願っています。

こんなに怖いものが安全でクリーンなエネルギーと信じ切って今まで過ごしてきた事に呆れてしまいます。

一生、放射能と背中合わせで生きていかなければならないフクシマ県民はどんなに補償金を積まれても取り返しの付かない運命に晒されました。

レベル7がもたらす影響は、今後どのような形で現れるのかそら恐ろしくなります。

最後に、皆様からのご支援に感謝を申し上げます。



御 礼

宮城県スポーツ用品協同組合
理事長 大 坪 征 一

この度の東日本大震災に際しまして、全国各地より心温まる励ましのお言葉、並びに義援金を頂戴致しましたことに対し、厚く厚く御礼を申し上げます。

会員の中には、家族や従業員を亡くされた方こそおりませんでした。津波による災害で住む家や店舗を失った方、浸水で店舗の営業が大変厳しい状況にある方も多数おります。

宮城県や商工会議所などの支援を生かしながら復興に向け、日々一歩一歩前進していくことが、一日も早い復興につながると思っております。

険しい道のりは、まだ始まったばかりですが、会員皆様と力を合わせながらこの未曾有の難局を乗り越え、復興して参りたいと存じます。

今後とも 何卒皆様のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

御 礼（震災を体験して）

岩手県スポーツ用品専門店協同組合
佐 藤 佳 明

3月11日 東日本の広い地域に甚大な被害をもたらした大震災。また東京電力福島第一原発事故は、依然として予断を許さない状況が続いています。

この大震災による岩手県の組合員の被害は、津波での全壊が大船渡市と釜石市の2件、地震での半壊が奥州市前沢区の1件でした。

全国の組合員の皆様方からは、心暖まる御見舞金をいただきありがとうございました。

被害にあわれた大船渡市のスポーツ店様に状況

をレポートしていただきましたので報告いたします。

JSERAの皆様、この度の東日本大震災で多くの方からのご厚情を賜りありがとうございました。また、JSERAからの多額の見舞金を頂きありがとうございました。

間もなく、3ヶ月が過ぎようとしています。無我夢中で後片付けや再開に向けていろいろ準備を進めてきてようやく仮店舗で再開をしています。➤

さて、当時の様子と現在の状況を報告させていただきます。皆様も津波の様子はテレビ等でお分かりでしょうが改めて書かせていただきます。3月11日午後2時46分、今までに感じたことのない異常な大きな揺れでその揺れが収まりそうになってまた大きな揺れを何度か繰り返しました。津波の襲来を予感されるものであり、沿岸近くの住民は高台への避難を始めました。私も支店近くの高校にいましたが、本店へ急いで向かいました。

途中支店の従業員を避難させ、本店へと急ぐ車のラジオから3時5分に第一波の襲来があったことを知らせています。不安を感じながら高台に車を置き、本店へ着くと従業員は先に避難させて妻だけが私の来るのを待っていました。すぐに駐車場より車を出し一緒に高台へ避難、着くと同時ぐらいに第二波が3時12分に津波が来たと声がして店のほうを見ると防潮堤を溢れ出す黒い波が凄まじい勢いで流れ込んできて家々をドミノ倒のごとく押流し、電柱も爪楊枝でも折るように乾いた音で折れていき、波は重なるようになりあっという間に15、6mの水の壁が少し高いところにある当店の屋根の上をはるかに越えていくのを見て、建物が残っても店内は期待を持たせるような状態でないのを容易に推測させられました。言葉もなく、涙を流すことも忘れていました。

津波も収まり、店を見に行くと後ろの壁と正面のウィンドウが破壊されて店内には商品、機械類、陳列棚、レジ等が何一つ残ってもなくあるのは、がれきと重油だけ、4km以上離れた支店まで浸水したのは水の多さにびっくりしました。

震災3日後から後片付けを始めたら大船渡高校野球部の今年卒業した部員が6,7人そしてお得意さんがボランティアで3週間位も手伝っていただき、重い畳などを出してもらいおもいのほか早く片付き、現在は支店で営業を再開して、少しずつ

落ち着きを取り戻しつつあります。街の様子は道路のがれきは取り除かれ通りはよくなってきていますが店・事業所の周りのがれきはまだそのままであり、1年後でもがれきの処理は終わらないようで、いつから復興作業が始まりどれだけの時間を費やせば元になるのかわからない状況です。本店のあった商店街は地盤沈下により浸水もたびたびあり危険地帯になり、同じところに店舗が再建できるのはいまだにはっきりしない状況、行政の明確な青写真もなく今後の計画も立てられずにいて、今やれることだけをやるしかない状態です。

県内の他のところも進捗状況の違いはあっても当地と同じ有様です。5月には遠方から忙しい中を重森理事長には被災地 大船渡まで激励に来ていただき感謝いたしております。また元気とがんばる力を頂き少しずつ前を向いて懸命に過ごしています。

最後に今回皆様から頂きましたご厚情に長い年月をかけて少しずつお返しさせていただきますので今後とも御助言、御鞭撻よろしくお願いいたします。

岩手県大船渡市 岩沼利英



復興への道

愛知県スポーツ用品商業協同組合

理事長 土 赤 光 宏

始めに、今回の出来事で私自身体験学び得ることが出来たのは、ご自身が被災されているのにも関わらずご支援いただいた宮城県理事長の大坪さん、事務局長の松山さんの御協力があったからこそ支援させていただけたのです。日ごろより水魚之交の関係にある宮城県組合と愛知県組合との協力により、一緒に炊き出しをする事が出来ました。深識ある者ではございませんが感じた事をお話させていただきますので何卒ご理解いただきます事お願い申し上げます。

このたびの大激震は、東日本だけでなく日本全体を揺るがすものとなり、改めて人のあり方、人の根幹を気づかせてくれました。私はいつも家族や仲間助けられながらスポーツ店を営み暮らしています。ならば今自分の出来る精一杯のことをすれば、日本が少しでも早く立ち直り甦ると思い、取り組み行動させていただきました。

取り組みとして、一に金銭物資支援、二に人道支援、三に経済支援とする事を決め実施行動致しました。

一の金銭支援では、JSERA との協力でを行い、物資支援は、直接要望をお聞きし支援致しました。二の人道支援については、愛知県の組合活動の利他精神に基づくもので、本人の意思に依るものに

なりますが炊き出しをさせて貰うことに決め、4月と5月の二回要望をお聞きしてそれぞれの避難所で炊き出しを行いました。

4月には3人で仙台市立南小泉小学校へ炊き出しに行き、5月には辻本前理事長さん含め4人で石巻市飯野川中学校へ炊き出しに行ってきたから、皆さんが大変喜んでくださいました。私は、みんなで協力しあって生活している姿に感動し、人を想う心の大切さを気づかされました。

三の経済支援では、「宮城県地場商品」と『がんばろう日本』メッセージをセットにして、購入いただき内の100円を義援金とすることを決め、愛知県の組合員さんを始めとする問屋さんメーカーさんにも協力を仰ぎ、一か月で1,500セット購入していただきました。皆様の思いやりに感謝した次第です。

今回貴重な体験をして思ったことは、人ひとりの力は小さいかも知れませんが、仲間が仲間を想う気持ちがあればとても大きいものになり、全国の仲間が集まればスポーツの仲間は日本を明るくさせる光となると思いました。

感謝 拝

地場商品を購入してみんなで売上貢献しましょう!!

急啓 大地震から二か月となり、これからは経済支援が必要とされて来ています。そこで、表題に合わせて私たちがまず出来る取り組みを皆さんと一緒にさせていただきたいと思います。牛たん一袋で@100の義援金になりますので、ぜひ皆さんの支援をお願い致します。集まった義援金は、宮城県に贈らせていただきます。

心

目 的：地場商品+『がんばろう日本』メッセージで、経済効果をつくる

商 品：宮城県仙台『牛たんジャーキー』+『がんばろう日本』

ホテルウェスティン仙台を初めとするホテルや、ゴルフ場などで販売されている人気の牛たんです。

方 法：①注文書に数量など記入

②愛知県スポーツ用品商業協同組合事務局へFAX

③5/25(水) 総会終了後、現金と交換

*宅急便にて送ることも出来ます。

別途送料@420 かかります事ご了承ください。

金 額：1袋25g ¥400(税込)『がんばろう日本』メッセージ付

注文先：事務局 丸丹スポーツ内 FAX 052-251-1712 藤本 宛

問合せ：090-3567-2076 土赤 迄



学校教育について

三重県スポーツ用品協同組合

理事長 角 前 博 道

(前号のつづき)

私が思うのに、総合学習も体験学習も、学校の役割を助長するためのものであって、親や地域の教育力が不十分だから、学校が補うのだ、などとだいたいそれた考えは捨てるべきだ。家庭での生活指導、校外指導、通学路での指導、果ては親の教育。今は、子供の問題行動を正そうとすると、親から取り組まねばならなくなっている。万引きを注意すると、親が子の前で、返せば良いでしょうなどといって、窃盗が犯罪だと云う自覚も反省もないから、子供への指導が役にたたない。などなどその最たるものではないでしょうか。学校の本務ではないことは毅然と「出来ません」と云うべき勇気が必要だと思われます。何でもひきうけ屋になったら、結局は何も成就しないことになりません。学校や教師はそれ程万能でも有能でもないと思います。ただ現実的には、云う程簡単ではありません。

一般に学力と云うと知識・理解・技能が見える学力として分かりやすいために中心となります。学力が知識の偏重のそしりを受けるのは、誰かに思考力・判断力・表現力が忘れられていると指摘されながら、育たないからと思われる。その犯人は、大学や特に高校の入学選抜方式と思われる。入試の改革が叫ばれ、いくつかの試みがなされてはいる様ですが、例えば推薦入学・AD方式(面接や小論文で学ぶ意欲や発表能力を評価する

方法)等々。しかし高校入試では依然として知識の見える学力が中心になっている。これは、思考力、判断力、意欲、態度が必要だとされても、入学選抜の為のテスト内容となると、問題の作成や評価が困難だからどうしても正誤の明確な方に傾いてしまう宿命みたいなものを持っている。いくら小中の学校の現場で知識習得の時間や内容が削減されて、そして、思考力や判断力・意欲や態度の育成と取得の為総合学習や体験学習が取り入れられても入試が改革されねば目先のことに魅せられて、親や世の中から歓迎されない。(近年世界の学力テストで日本の子供達の成績もあまり芳しくない)だから土曜日補習が行なわれたり、多くの私学では五日制を取り入れながらその様に行なわなかったりし特に私学では、少子化の進行に伴い、このことが生徒の確保の手段とさえなっている様です。これでは、本当の教育は不在といえるのではないのでしょうか。大学においても、学生の確保が学校の存亡に関わるから、受験生に迎合するような入試を行なうところも多いと聞きます。

ではなぜこのような分かりきったことが改革されないのか。一番の「ガン」は教育関係者の意識だと思う。つまり従来の教育制度から抜け出そうとする感覚や勇気がとぼしいのが最大の原因ではないのでしょうか。教育の現場が声を大にして、問題の改革に向けてエネルギーを結集すれば、不可能ではないと思われます。

平成 23 年 JSERA 中部ブロック協議会静岡大会のご案内

JSERA 中部ブロック協議会 会 長 澤田 基朗
静岡県スポーツ用品商業協同組合理事長 中田 敏彦

青天のへきれき、東日本大震災で未曾有の被害が発生し、被害状況は計り知れず、避難者の受け入れは全国に拡がりつつあり、まことに心が痛みます。我が国の産業・経済への影響も、これから次第に明らかになるでしょう。この国難ともいえるべき非常事態に直面した今、私達スポーツ店経営者として何か支援をしたい、何が出来んだろうかと躊躇しているのではないのでしょうか。100年に1度あるかないかのこの天災を共に乗り越えて、被災地の早期復興の願いを込め、中部ブロックとして何か発信できないだろうか。ブロック組合員の英知を結集する場となればと提案いたします。

記

- ◆ 日 時 平成 23 年 6 月 1 日 (水)、2 日 (木)
- ◆ 会 場 J R 浜松駅北口 オークラアクトシティホテル浜松
TEL 053-459-0110
- ◆ 会 費 ￥25,000 (懇親会、宿泊、朝食)

一日目

- ① 中部ブロック理事長会 PM 0:00 ~ 1:00 【4 階 桜】
- ② 中部ブロック定時総会 PM 1:30 ~ 2:30 【4 階 平安Ⅰ】
- ③ 三層協議会 (式典) PM 2:45 ~ 3:45 【4 階 平安Ⅰ】
- ④ 三層研修会 (講演) PM 4:00 ~ 5:30 【4 階 平安Ⅰ】
★講師 桑原 勝義 (現 日本フットボールリーグ (JFL) 理事長)
- ⑤ 三層懇親会 PM 6:00 ~ 8:00 【4 階 平安Ⅲ】

二日目 ※ ゴルフ参加以外の方は朝食後解散

- ⑥ 親睦ゴルフコンペ ゴルフ場集合 8:45 ^{カツラギ} 葛城ゴルフクラブ (袋井)
★ 参加費 ￥2,000 (当日集金)・参加者に細部連絡いたします。
★ プレー代 ￥16,000 (通常約 ￥24,000 を割引) 各自清算

- ◆ 申込方法 別紙申込書にて、4 月 30 日までに FAX でお申込ください。
- ◆ 振込期日 5 月 10 日までに振込みをお願いします。



兵庫から被災地へ

兵庫県運動用品協同組合

副理事長 **讃岐和子**

株式会社スポーツマン(姫路)

2011年3月11日14時46分マグニチュード9.0の巨大地震が三陸沖に発生しました。この「東日本大震災」でご逝去されました方々には、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

6月の調査では、死者、行方不明者の数は、合わせて23000人と発表されていますが、未確認の人をいれると3万人になるだろうと言われています。

「人の命の大切さ」をあらためて痛感させられます。

地震と津波だけでも大変な被害ですが、それに加えて、人類史上最悪の被害をもたらすかもしれない原発事故が、解決の目途すら立たない状況です。技術大国と自負していた日本ですが、海外から専門の技術者に知恵と力の援助を受けないと解決できないのが実態です。また当初、海外からは日本の秩序ある国民性に賞賛の声があがっていましたが、「避難生活が長引いて食料や燃料の不足から被災地の一部では、混乱に乗じたとみられる盗みなどの犯罪が相次ぎ、住民らは警察の協力も得ながら、見廻りをするなどの対策を始めている。」との報道もあり、被災地の方々のご苦労をお察しいたします。

このような報道を聴く度に、16年前のマグニチュード7.3、死者6434人の「阪神淡路大震災」のことが思い出されます。

1995年1月17日(月)5時46分。前日の「店のSALE」が終わり、その疲れでぐっすり寝込んでいたら突然、「ドドーン」というような縦揺れの感覚が身体中にひびきわたりました。そのあと、横にグラグラと揺れ、一体どの位続いたか……。ずいぶん長く感じられたけれど、実際はほんの数秒のことだったみたいです。3階だったので揺れが少し大きかったのかもしれませんが、わたくしのところ姫路は震度4(これでも本当に怖かった)阪神淡路大震災でした。一体店はどうなっているかと心配しながら行くとなんともない。午前中に

メーカー問屋、親戚からのTELがはいり無事を報告。午後になると電話は一切不通になり世間から取り残されたよう。ただTVを付けると画面は神戸近辺が映り、コメントなしで燃えているシーンばかりが放送されているだけでした。そういう日々が何日も続いていましたが、1週間たったぐらいにやっと電話がつながって、いろんな情報が入り私達の無事をありがたいと思いました。被災の状況が分かってくると「何とかしなくては」と考えていたら、大阪の岡本理事長から義援金を送ると言っていたき、震災口座を独断で開きました。愛知の辻本理事長からも国体後ということで多額の支援をいただき、全国に声をかけていただきました。その後の全国大会(総会)では、全壊された兵庫県の田中理事長と共に出席させていただき、ご支援戴いた方々にお礼を申し上げ、また今後も引き続いてのご支援をお願いいたしました。「被災された組合員への振込も出来るだけ早い方がいいだろう」と考え、2~3人の方と相談しながらどんどん先へ進めました。前後の見境なしにできたのも若さでしょうか?何年かたってから送金させていただいた方から「あの時の現金はありがたかった」の一言を戴いて、やつぱり「支援をよろしく願いいたします。」とみなさまに何度も頭を下げてきた甲斐があつて良かったと思いました。今回の東日本大震災は阪神に比べて被害の範囲規模も大きく皆様からのより多くのご厚意を望んでおります。

重森 JSERA 理事長の現地訪問という素早い行動に感動し、被災地の現状を聞くと尚いっそう全国の組合の皆様からのご支援をお願いするばかりです。前後二年国体一総体一全中の開催県には特別のご配慮をいただければと願っています。

16年前から兵庫県組合全員が全国の皆様に感謝。何か事あれば素早い支援を心がけています。

被災地の皆様の1日でも早い復興を祈念いたします。

国体の開催に向けて

山口県スポーツ用品小売協同組合

実行委員長 杉 本 光 馨

最初に、この度の東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。多くの人々が復興にむけて動き出されていることに感動致します。

さて、今年10月にいよいよ開催される山口国体の正式名称(冠称)が「東日本大震災復興支援 第66回国民体育大会」と決定しました。

また、国体の冠称決定により、全国障害者スポーツ大会山口大会は「東日本大震災復興支援 第11回全国障害者スポーツ大会」となりました。

愛称は、「おいでませ!山口国体・山口大会」となり、マスコットは、「ちよるる」君です。

開催期間は、9月7日の水泳競技(シンクロ)を皮切りに、10月1日の開会式から11日間の熱戦が繰り広げられます。更に、10月22日～24日の三日間障害者スポーツ大会が開かれます。

開催場所は、今年の3月19日にオープンした維新百年記念公園陸上競技場を中心に、山口きらら博記念公園プールなど18市町(県外開催1市1町を含む)の会場で行われます。



山口県スポーツ用品小売協同組合は、県内を6のエリアに分け、ブロック長を中心に売店運営を図ります。

売上予算は2億6千5百万円(障害者大会含む)

を目標にしております。

48年ぶりの開催となるこの大会に向けて組合加盟の21社は、現在各市の実行委員会事務局で配布されている申請書にもとづき売店出店の手続きを行っていますところでは。

現時点での進捗状況は、約3割程度の申請を終えたところですが、各会場の都合により出店場所に制約があり、希望通りの出店ができない場所も出てきています。

これまで開催県の情報を参考にし、活動資金の調達・組織の編成・役割分担・売店責任店の決定等をしてまいりました。

これからの予定としては、7月中旬までに各会場の申請状況を把握し、最終の出店リストを作成し、併せて警備の手配をします。

また、国体ユニフォームの仕分けと各選手団への納品を行い、8月末に売店責任店の担当者を集め、売店運営と売上等の報告業務についての説明会を開く予定です。

9月上旬には、売店で販売される記念品等の検品と商品整理及び出荷作業を行います。

大会本番では、売店を「自分の大切なお店である」と位置づけ、売店責任者は元より販売員に至るまで、全国から来場される選手、監督、役員及び応援の方々に気配りのある接客とサービスの提供で気持ちの良い大会であったと思って頂けるよう心掛けていきたいと思っております。

この大会が晴天に恵まれ、成功裡に終わることができるよう、組合員全員一丸となって頑張る決意です。JSERA及び関係各位の皆様方のご支援とご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

高校総体の開催に向けて

青森県運動具商協同組合

理事長 福士大二

このたび、東日本大震災で被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。

皆様の一刻も早い復興を心からお祈り申し上げます。

「2011 熱戦再来 北東北総体」に向けての活動のスタートは、平成 22 年 11 月 25 日に岩手で開催された青森・秋田・岩手による北東北 3 県の組合合同会議からでした。

そして 2 月中旬に JSERA&JSEC・NES 連絡会議が開催され、いよいよ北東北 3 県の高校総体に向けた活動が本格化しました。

会議で昨年開催の沖縄県の組合の方々から、いろいろな御苦労話を伺い、「調整業務は大変そうだな」という印象を持ち、戻ってさっそく青森県組合の役員に集合をかけて、2 月下旬に第 1 回青森県組合会議を開催しました。

初の北東北 3 県合同開催、特に青森県では「ねぶた・ねぶた・三社大祭」などのお祭りをまたいでの開催になり、日本を代表する祭りとスポーツイベントが同時に行われることがわかり、ようやく組合員たちの士気も高まり「さあ、これからだ!」という矢先に大震災が起きました。

午後 3 時少し前に地震が発生し、青森市は丸 1 日以上停電に見舞われ、その後は物流のマヒ・ガソリンや日用品の不足が続いたのは、影響の大小はあったにせよ、日本全国の問題となりました。大会・行事の中止、学校によっては部活動や遠征の中止、そして新入生向けの学販は通常通り行えるのか? 各小売店の 3 月・4 月の売上の落ち込みは想像以上だったと思われます。

このように大震災による影響で、総体売店設置のための活動は約 1 カ月ほどのブランクが発生

し、再度活動を始めたのは 4 月半ばでした。その 1 カ月間は、総体自体も開催されるのか不安でしたが、地元のマスコミ情報が一番早く、震災復興に向けて北東北高校総体は予定通り開催する(一部被災地で実施予定競技は場所を変更する前提で) 旨が報道され、われわれも時間がない中で、がんばって売店設置活動を再開しました。

今はインターハイに向けて、ようやく組合員が一堂団結し、準備を進めています。

しかし、青森県内の各自治体と各開催競技の売店について話し合いを進めていく中で、各競技実行委員会(県・各市町村)と総体専門部の方々の関係がうまく取れていないことが多く、苦劳しました。

6 月中旬になって、やっと調整も最終段階となり、出費を最大限抑えて売店出店が実現できるメドがつけました。

しかし、今年は 3 県合同開催ということで、秋田・岩手の各自治体の状況はほんとうに様々であるため、当初目指していた組合員への収益還元方法の共通化などはとてもできない状況で、各県ごとの対応となりそうです。

いづれにしても、大震災の被災地を含めた地域での高校総体の開催であり、売店についても、ぜひ復興支援の要素を取り入れたものにしていきたく、3 県合同での復興支援策を考えて本番では実行したいと考えています。

また、インターハイを成功させると同時に、本県に来県された生徒・関係者の方々には、たくさんの良い思い出を持ち帰っていただきたく、そのための準備を少ない期間の中で精一杯進めていきたいと思います。

熱戦再来北東北総体開催に向けて

秋田県スポーツ用品商業協同組合

理事長 五 嶋 一 夫

平成 23 年度高校総体県予選も今真最中です。例年是一个の椅子の争いですが、地元開催のため椅子が二つ有ります。6 月初めより熱戦の火蓋が切られております。

特に秋田を代表するスポーツはバスケットボール・バレーボール・ラグビー・サッカーなどがあります。昔から全国大会での優勝が有るスポーツ競技です。特にバスケットボールの能代工業高校は県大会予選の 42 年連続優勝記録継続中です。裏を返しますと、42 年間県内男子 44 チームがありますが全国大会にはほとんど縁がないようです。

それが何十年に一回のめぐり合わせで全国大会の切符が手に入るとなればおのずと燃えるのは秋田県民ばかりでしょうか。雪国秋田は 1 年の半分が風雪に耐えて生活して居りアスリートは黙々練

習に耐えて何十年に一回のチャンスをモノにしようと今年の大会に臨んでおります。

私ども秋田県スポーツ組合も 23 年度の高校総体には 29 店でがんばって居るしだいです。

現在の進展状況は各事務局とテントの数・大会日・時間等の打ち合わせ、また警備業務の請負契約等が終わり、協賛金の支払は各競技団体の委員長様まで持参いたし、売店等のお願いをいたしてきております。秋田県を 3 ブロックに分けて各競技の担当店の確認をしております。

また NES 販売目標が 46,250(千)であり各売店の数字も出しておるしだいです。

今回色々申請をしている中で秋田市の会場を取り仕切る市役所の外郭団体で秋田コンベンションが会場を仕切りますが、売店出店料の高騰には驚きました。

これからの時代はこれが当たり前になる様な気がします。あと約 1 月半でスタートするインターハイの北東北 3 県でしかも東北震災・福島原発事故とあまりにも思い出深い大会になりそうです。

岩手からはヨット競技が秋田での実施です。その他岩手で実施するとのこと、私たち以上に岩手の組合員のがんばりを心から祈って居ります。

全中にむけて

奈良県運動用具小売商協同組合

事務局 金 井 啓 次

あれから約 3 ヶ月何一つ回復の兆しも無く、毎日報道等で現状を見るに付け、大変心を痛めています。同業者の皆さまが今どのように暮らされておられるか心配です。何一つお助けも出来ず遠いところから声援を送るしかなく一日も早く回復されることを、祈ります。

そろそろインターハイ・全中の県予選が始まっております後 2 ヶ月ほどで本番が始まります。奈良県

は 2009 年にインターハイを経験しており、今回の全中では陸上競技とソフトテニスの開催で今の時点では全中の事務局と連絡を取り合い、警備及びテントの配置そして組合員の売店配置まで進んでいます。被災された各県の関係者のことを思うと、開催に参加できるのか、東北ブロックのインターハイは大丈夫なのか、皆様が元気で参加されるよう願っています。

売上目標は前年度以上を目指して組合員一同がんばります。

インターハイの経験で反省点もわかっており、楽しく選手たちを迎え入れられるように準備したく思います。

元気な表情で選手たちが来られることを、お待ちしております。

第12期 第6回 理事会議事録

日時：平成23年5月11日(水) 11:00～16:30

委員会 11:00～12:00

昼食 12:00～12:30

理事会 12:30～16:30

場所：東京スポーツ会館4階 会議室

I. 開会(進行)

II. 理事長挨拶

III. 出席者及び配布資料の確認

理事	重森 仁	武宮 兼敏	角前 博道
	関水 正章	関口 孝夫	蓮田 茂樹
	矢野幸太郎	大坪 征一	穴戸 幸市
	橋本 隆一	水島 隆司	大林 哲夫
	笹渕 信嘉	桑原 勇健	

委任理事 美馬 義一

委任監事 安西 昭雄

IV. 議事録作成人の指名

重森理事長より蓮田専務理事を指名

蓮田専務理事

重森 仁理事長

< 報告事項 >

1. 理事長報告

[3月11日東日本大震災より本日まで] 被災県組合と組合員への対応。

[3月16日] 大阪にて緊急対策会議(義援金として10万円以上を各県組合へお願い)

[4月19日] 全国中小企業中央会(鮎川氏)へ零細小売業への支援を要請。

[5月9日] 岩手県・宮城県・福島県へお見舞い訪問。

2. 委員長報告

< 活性化委員会 > 関口委員長

[8月3・4日] 高知県にて安全対策の講習会予定。

< 共生委員会 > 武宮委員長

- ・正常化対策委員会を開催。2月3日(大阪)・2月16日(東京)。
- ・全日本軟式野球連盟の役員キャップがR社直接ではないかとの事。

⇒確認中

< 広報委員会 > 角前委員長

[3月16日] 大阪にて緊急役員対策会議を開催。

⇒復興支援第一弾を決定

・東日本大震災関連 JSERA 回覧板1～4号を発行。

・57号のJSERAレポートを発行。今後も原稿のご協力をお願いしたい。

< 事業委員会 > 関水委員長

・震災直後G社よりA社の原材料である炭酸カルシウムの鉱山が原発35Km圏内にあるが、そういう商品を取り扱うのはどうか?という内容のメールがJSERA事務局に届く。

⇒A社へ調査依頼。汚染されていないというデータを確認

G社へ厳重に抗議した

・JSERAエコマークの申請が積水ハウスの事情で申請自体が遅れており、取得は8月頃の予定。

・プロギアのメガネは前向きに検討。3万円セットを100セット位を検討中。

・三栄とJSERAとの取り組みも前向きに検討中。

< 総務委員会 > 蓮田専務理事

・東日本大震災の対応。

・JSERA事務局のコピー機が5年経過したが当分は現状のまま使用。

・元JSERA事務局員の狩野さんが5月10日男児を無事出産しました。

< 審議事項 >

1. 東日本大震災への対応の件(資料No.5～14)

・各都道府県組合(5,510,000円)・個人(1,250,810円)総額6,760,810円の義援金が集まりました。(5月9日現在)4月13日にJSERA事務局にて重森理事長・蓮田専務

理事とで協議し

- ・全壊程度の1組合員 40万円(本日後承認)
- ・半壊程度及び原発避難指示区域内の1組合員 20万円(本日後承認)

の緊急一次配分を行ないました。

(個人名は理事会までとし公表しない事)

⇒一次配分…岩手県 100万円

宮城県 200万円

福島県 140万円 合計 440万円

・残金については地震の被害というより津波の被害と解釈

⇒下記県組合へ配分し各組合で調整してもらう

・岩手県・宮城県・福島県 各 70万円

・青森県・茨城県 各 10万円

・千葉県 5万円

・岩手県のスポーツ店よりの依頼(資料有)

⇒名前を出さずに全国に募り、窓口はJSERA事務局とする

< 協議事項 >

1. 震災に伴う今年度事業修正の件

・ボールを贈ろうの事業で例年参加組合には助成金1万円を出していたが、今年に限り、助成金は無しにするが事業としては行なう。

⇒予算50万円は被災県に寄付。方向性は次回の理事会で決める

・グリーンテクノ21よりガイアロジンを今期で取り扱い商品から外してほしいとの依頼あり。

⇒事業委員会にまかせる

・ショッピングバッグ業者が原油高・関税の関係で値上げを要求してきたので8月頃見積もり合わせをする予定。それまでは現状価格で。

⇒9月の理事会で決める

・エコライン販売手数料の日本体育協会への5円分が22年6月～23年3月分で28,690円。

⇒日本体育協会への寄付は繰越とする(10万円まで待つ?)

1. JSERA リポート 57号の件(資料No.17)

・7月20日発行 原稿締切は6月18日。震災関係の記事が多くなる。

発行部数は54号～56号の残り部数を参考に今回は1800部にします。

リポート1ページ分は原稿用紙4枚+a。足りない場合は写真等で補う。

1. 定時総会並びに関連事業の件(資料No.18～27)

・大会スローガンは埼玉県で決める。

・JSERA 年間スローガンは多数決の結果

“がんばろう東北!復興に向けて 1500の絆”に決定。

・研修2部……討論会のグループ分けは各ブロックがランダムになるように調整する

・9～10テーブルを予定

・会議録は当日の懇親会で配布予定

・観光ツアーは川越を予定。

1. その他

・安全グラスについて(株)アジアロイドジャパンより説明・資料有り)

⇒乱視レンズ可能

・スキー用サングラスとしての使用可能

・販売開始時は今年の10～11月を目標としている

・主要県組合に説明をしに回りたい

・全国大会でチラシ配布してもらいたい

・MDCとは、他業種70社くらいが集まった卸組合のこと

・送料はMax850円・関東近県500円くらい(ヤマト・佐川)

・次回理事会について(クールビズ)

⇒7月7日(木)東京スポーツ会館4階会議室

閉会の辞角前副理事長

15:55 すべて議事を終了し閉会した。

新事務局員紹介

JSERA 事務局

小沼清美

東日本大震災にて被災されました方々には、心よりお見舞い申し上げます。

2月23日よりJSERA事務局でお世話になっております小沼清美です。

主人の仕事の関係で、松戸（千葉県）・目黒（東京都）・ふじみ野（埼玉県）と転々と移り住み、昨年暮れに主人の実家である浅草（東京都）に落ち着きました。子供の学校や生活が落ち着いたところで仕事を探し始めましたが、このご時世なかなか仕事が決まらず困っていたところ、ハローワークでJSERA事務局の仕事を紹介して頂きました。ドキドキの面接を受けとても不安だったのですが、採用して頂きホッとしたものの、事務職としての仕事に十数年のブランクがある為、未だにドキドキしながら

仕事をしている毎日です。

私は、中学から大学まで陸上競技部に所属し青春時代を過ごし、全中で和歌山県、高校総体で山口県と北海道に行きました。今思えばこの頃から皆様にお世話になっていたのですね。なぜか国体（行きたかった沖縄）とは縁がなかったです。日体大へ進学後は陸上を続けながら、スキーやゴルフとスポーツの幅を広げ、結婚後はソフトボールチームに所属し現在も息子の少年野球の応援の合間をぬって、年に数回練習や試合に参加しております。1番センター（たまにレフト）で頑張っております。気持ちは若い頃のまま、でも身体は…って感じですが。

こんな私ですが皆様にご迷惑をお掛けしないよう頑張りますので宜しくお願い致します。

編集後記

スポーツ用品ジャーナル誌の7月号にスポーツ用品市場に関する調査結果が載せられていました。矢野経済研究所の調査で、東日本大震災がスポーツ用品市場に与える影響について4月から5月の期間中スポーツ関連企業、大手小売店などを調査の対象として、直接面談や電話等によるヒアリングとその販売情報を元に推計したものです。それによると11年度のスポーツ用品の国内市場規模は、前年比92.1%と予測されています。修正前の調査によると前年比102%と云うことであるから実に10%の需要が消失してしまったことになります。この原因としては、大震災の直接的な被害と、福島第一原発の事故による電力不足によりスポーツ施設や体育館等々利用が少

なくなったり、放射能漏れにより屋外活動を控える様になったこととあります。（詳しくはジャーナル誌7月号を読んで下さい）

特に我々組合員に気になるのは「野球ソフト」「アスレチックウェア」「フィットネス」「バスケットボール」「バレーボール」等々すべて我々が毎日精を出して必死になって売っているカテゴリーばかりです。特に野球ソフトの85.6%が気になります。でも弱音をはいてはいられません。被災された地区の皆さんはもっと苦しい立場に立たされ、頑張っておられるのですから。全国の仲間の皆さん、とにかく前へ前へ一歩でも前へです。

(H. K)